

第 1 回市川町総合戦略会議 議事録

会議名	第 1 回市川町総合戦略会議
開催日時	令和 8 年 9 月 2 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分
開催場所	市川町役場 4 階相談室
出席者	総合戦略委員：井野 健三郎氏、林野 幸司氏、村上 和男氏、大塚 雄一氏、 喜田 美咲氏、高松 知史氏（副委員長）、石川 伸也氏、中野 大輝氏、 山下 彰彦氏、藤本 雄介氏、高橋 和美氏、小野 康裕氏（委員長） 市川町：津田町長、尾花副町長、岡本教育長、木村企画政策課長、 青木課長補佐、木村課長補佐
会議次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 委嘱書交付 4. 出席者紹介 5. 委員長及び副委員長の選任 6. 第 2 期総合戦略事業実績について 第 3 期総合戦略事業について 実施事業の評価・改善と課題について 7. その他 8. 閉会
会議資料	第 2 期総合戦略進捗管理資料、第 3 期総合戦略冊子、人口推移資料・次 期人口ビジョン検討資料、施策事業別 KPI 比較表、イベントチラシ

【開会・あいさつ】

企画政策課長

皆さんこんにちは。定刻となりましたので、ただいまから第 1 回市川町総合戦略会議を開催いたします。本日は委員の皆様におかれましては、何かとご多忙の中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

開会にあたりまして、津田町長からご挨拶を申し上げます。

町長

皆さんこんにちは。この度は第 1 回総合戦略会議にご参加いただき、誠にありがとうございます。

特にこの 8 月は、全国的にも大変暑い日が続いておりました。また、熊本での地震、千葉での水害に関しまして、多くの方々が亡くなられたことに対し、心からご冥福をお祈りするとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願っております。

市川町におきましても、兵庫県と連携し、8 月 31 日から 2 名の職員を熊本へ派遣しております。主な職務は家屋被害の調査であり、現地で懸命に業務に当たっております。報告によりま

すと、あまりの暑さで iPad などの機器の動作にも支障が出ることがあり、冷やしながら業務を進めているとのこと。そのような環境の中で被災された皆様のご苦労を思いますと、本当に胸が痛む思いであります。このような広域的な支援や連携を通じて、今後町内で大きな災害が発生した場合にどのように対応すべきかを考えながら、まちづくりを進めていきたいと考えております。

また、令和 8 年度からの市川町総合計画が始まり、それに沿って今後の町政を進めていくこととなりますが、その中で人口減少や地域活力の維持は非常に大きな課題であると認識しております。委員の皆様には、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただき、一緒に市川町のこれからを考えていければと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【委嘱書交付】

企画政策課長

ありがとうございました。

続きまして、市川町総合戦略会議委員の委嘱書の交付を行います。時間の都合上、代表の方お一人に交付する形とさせていただきますので、ご了承をお願いいたします。それでは、委員の皆様を代表しまして、山下様に委嘱書を交付いたします。

(町長より山下委員へ委嘱書交付)

企画政策課長

委員の皆様におかれましては、この度、委員をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。委嘱書につきましては、皆様のお手元にも配布をさせていただいておりますので、ご確認をお願いいたします。

また、任期につきましては、市川町総合戦略会議設置要綱により、令和 8 年度から令和 9 年度までの 2 年間となっております。どうぞよろしくお願いいたします。

【出席者紹介】

企画政策課長

本日ご出席いただいております委員の皆様をご紹介します。配席図に従いまして順番にご紹介させていただきます。

(委員紹介は省略)

【委員長及び副委員長の選任】

企画政策課長

委員長及び副委員長につきましては、市川町総合戦略会議設置要綱第 5 条第 2 項により、委員の互選によって定めることとなっておりますが、これまでの経過もございますので、事務局より委員長・副委員長を指名させていただいてもよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、事務局からご指名をさせていただきます。委員長に小野様、副委員長に高松様にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。よろしければ、皆様の拍手をもってご承認いただきたいと思います。

(拍手)

ありがとうございます。それでは、小野委員長、高松副委員長、どうぞよろしくお願いいたします。お二人は委員長席、副委員長席へご移動をお願いいたします。

委員長

改めまして、こんにちは。ただいま委員長に選任をいただきました、市川町商工会会長の小野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

この総合戦略会議が始まった当初から委員長という立場で関わらせていただいております、もう10年以上になります。長くこの会議に関わってきましたが、市川町を取り巻く状況は年々厳しさを増していると感じております。そうした中で、今回も事務局から説明を受けた後、できるだけ皆さんのご意見を伺う時間を確保したいと考えております。説明は要点を押さえていただきつつ、委員の皆様には率直なご発言をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

企画政策課長

それでは、これより先の進行は小野委員長にお願いいたします。

【協議】

委員長

それでは、休憩を挟みながら進めてまいります。まず、第2期総合戦略事業実績について事務局より説明をお願いいたします。その後、休憩を挟みまして、第3期総合戦略事業について皆さんと課題や方向性について意見交換をしたいと思います。事務局お願いします。

企画政策課長

総合戦略について簡単に説明

【第2期総合戦略の実績報告】

事務局

資料により第2期総合戦略の実績を報告

【第2期総合戦略に関する意見交換】

委員長

はい、ありがとうございました。それでは第2期について、皆さんからご意見を伺いたいと思います。どなたからでも結構ですので、遠慮なくお願いいたします。

委員

第3期に掲載する事業を中心に実績説明をいただきましたが、第2期の事業の中には、事業自体は継続するものの、第3期には掲載されないものもあるとのことでした。そのあたりの整理の仕方と、なぜ掲載しないのかという理由をもう少し教えていただけますか。

企画政策課長

A3資料の中で、第2期と第3期の対応関係を記載しているものがあるかと思います。例えば、事業継続には○が付いていても、第3期の掲載欄が×になっているものについては、事業自体は継続するものの、総合戦略には載せないという整理をしております。

第2期の反省点として、48事業を幅広く掲載した結果、日常的な業務まで総合戦略に含まれるようになり、「何を重点的に進めるのか」が見えにくくなりました。また、担当課においても進捗管理が煩雑になり、戦略としての焦点がぼやけた面がありました。そこで第3期では、重点施策に絞り込み、24事業として整理しております。

委員

たくさんの事業を実施されているのはよく分かりました。その中で、ふるさと納税やアイアンハート号のような、市川町独自の取組について、どのように評価しているのかお聞きしたい。

企画政策課長

市川町の独自事業として、まず分かりやすいのはアイアンハート号だと思っております。これは国産アイアンヘッド発祥の地を PR するために作られた情報発信トラックですが、現在はそれだけでなく、市川町全体の PR やふるさと納税の発信にも活用しております。

市川町は待っているだけでは観光客が来にくいという現実もありますので、こちらからイベント会場やゴルフ関係の催しなどに出向き、市川町そのものを知っていただく取組を行っております。メディアや YouTube などにも取り上げられておりますので、今後さらに広がり期待できると考えております。

ふるさと納税につきましては、神崎郡内でも大きな寄附額をいただいております。主力はタズミの卵、そのほかアイアン製品、牛肉などがあります。

また、有機農業についても上牛尾地区を中心に取組まれており、有機農業をしたいという方が町外・県外から来られて定住されるケースもあります。そういった意味で、この 3 点が特色ある取組ではないかと考えております。

委員長

今の説明を聞いていて思うのですが、長いこと色々な施策をやってきた中で、人口減少に対して、これは多少なりとも効果があったと言えるものはあるのでしょうか。独自性があること自体は悪くないのですが、効果が見えなければ意味が薄いと思います。

企画政策課長

移住定住の観点から申しますと、有機農業に関しては一定の効果が出ていると考えております。

委員長

ただ、それは町の施策があったから来たのか、有機農業をしている人に魅力があって、その人を頼って来たのか、そこは分けて考えないといけないと思います。町が際立った施策を打った結果ではなく、個別の地域資源や人物に引き寄せられて来ている面が強いのではないのでしょうか。そこをどう見るかが大事です。

総合戦略として様々な施策を打ってきましたが、人口の推移を見る限り、予想以上に減っているのは事実です。これからもっと減る可能性もある。だからこそ、事業を絞った中で、本当に効果があるものは何かを議論していかないといけないと思います。珍しいこと、新しいことをやればいいというものではなく、定住につながるか、人口減少を少しでも緩やかにできるか、そこに焦点を当てないと、総合戦略に時間とお金をかけただけになってしまうのではないかと思います。

委員

15 番の事業で、吉本興業との連携による効果があったという説明がありました。また、いちかわテラスでも移住のサポートをされているとのことですが、相談件数や契約数など、具体的な効果の把握はされているのでしょうか。

企画政策課長

これまでは移住定住の相談を役場が窓口となって対応しておりましたが、土日対応が難しいという課題がありました。去年 7 月からいちかわテラスが発足し、移住定住や空き家バンクな

どの分野も担っていただいております。土日に観光で来られる方が多いことから、相談機会は増えてきていると思います。

ただ、実際の成約までつながったかどうかについては、役場として十分に把握できていません。中野委員からも補足いただければと思います。

委員

いちかわテラスでは、役場の業務を引き継ぐ形で、空き家バンクに関心のある方から申請を受け、不動産会社につないでいます。その後は当事者間のやり取りになるため、成約に至ったかどうか、また交渉の状況までは把握し切れておりません。

ここは課題だと思っておりますし、数値化しにくい部分でもあります。中には情報提供をいただけるケースもありますが、すべてを追跡するのは難しいです。移住後にそのまま定住されているかどうかについても、十分な追跡はできていないのが現状です。

委員長

問題はまさにそこだと思います。移住してきた後、定住せずに出て行ってしまう理由を把握しておかなければならない。地域とのトラブルが起きる場合もあります。自治会のルールが厳しいとか、都会の感覚と合わないとか、加入時の負担が思った以上に大きいとか、自治会費が高いとか、そういうことが後から分かって揉めることがある。

いちかわテラスで対応できる部分があるなら、行政と連携して、各自治会の状況が分かる一覧のようなものを整備しておく必要があると思います。また、自治会側にも、どうしたら空き家に住んでもらえるのか、どうすれば住み続けてもらえるのかという発想で見直してもらわないといけない。

単に定住件数を数えるだけでなく、出て行かないための政策まで含めて戦略にしなければ、本当の意味での総合戦略にはならないと思います。

委員

いちかわテラスでも、各自治会の情報収集を進めており、一定のリスト化を行っております。相談者への情報提供も行っていますので、このような取組は今後も積極的に進めていきたいと考えております。

委員長

ありがとうございます。それでは、第3期総合戦略の議題に入る前に休憩を取りたいと思います。

(休憩)

【第3期総合戦略の説明】

委員長

それでは再開いたします。第3期総合戦略について、事務局より説明をお願いいたします。第2期を振り返りながら、関連する点も含めてお願いしたいと思います。

事務局

資料により第3期総合戦略について説明

【第3期総合戦略に関する意見交換】

委員長

ありがとうございました。説明は以上とのことですが、ご意見やご質問がありましたら願

いいいたします。

委員

コミュニティバスについてですが、令和 7 年度は既に 1 万 1,000 人を超える利用実績があるとのことでした。通勤通学向けの時刻表見直しが効果を上げていると思いますが、既に令和 12 年度の目標値を超えそうな状況なのか、また、さらに利便性を上げる計画があるのか教えてください。

企画政策課長

コミュニティバスにつきましては、令和 6 年度に週 2 日運行から平日毎日運行へ改正しております。さらに令和 7 年度 4 月からは、通勤通学にも利用していただけるよう、早朝と夕方に増便を行いました。その結果、利用者数は大きく増加しております。

今後の具体的な見直しはまだ固まっておりませんが、買い物バスの利用者数が減ってきておりますので、時間調整をしながら一部を統合することや、予約型タクシーの導入についても検討しているところです。

委員

増えた利用者というのは、高齢者の利用が増えたというより、通勤通学の利用増が大きいのでしょうか。

企画政策課長

通勤通学の方が新たに増えた可能性はありますが、週 2 日から毎日運行に変わったことで、これまで利用日が限られていた方が、より頻繁に利用されるようになった影響も大きいと考えております。

委員

第 3 期には掲載されていない第 2 期の 14 番、「土地・施設の利活用」についてですが、宅地造成をして土地を供給することは、人口減少対策や転出抑制の面で重要ではないかと思います。旧川辺保育所跡地の活用も進めているとのことでしたし、町内で住み替えを考えている方、あるいは町内に土地を求めている方を引き止める意味でも、継続的に取り組んでいただきたいと思います。

もう一点、94 ページの「デジタル化と脱炭素の推進」で、LED 防犯灯設置件数が KPI に設定されていますが、これは新設のみを対象にしているのか、既存灯の更新も含むのか。また、再生可能エネルギー導入など脱炭素の取組が書かれている一方、具体的な実施事業としては見えにくいのですが、その点はいかがでしょう。

企画政策課長

まず、LED 防犯灯についてですが、従来は新設のみが対象でしたが、今回からは蛍光灯から LED への更新、いわゆる修繕的な交換も補助対象としております。

再生可能エネルギーにつきましては、兵庫県の補助制度で、太陽光発電設備や蓄電池の設置に対する支援があり、市川町が窓口となって対応しております。主に個人向け事業という位置付けです。

委員

第 3 期総合戦略では、移住者数を 50 名という目標に設定されていますが、これは国勢調査結果が出る前に設定された数値だと思います。今回の人口減少の実態を踏まえると、目標値の見直しを検討してもよいのではないのでしょうか。

企画政策課長

ご指摘のとおり、人口減少の実態を見ると、もっと大きな目標を掲げるべきではないかという見方もあるかと思います。ただ、第2期では目標値が高すぎて現実と乖離した面があったことも反省点としてあります。第3期では、現実的に達成を目指せる水準として設定したものです。目標だから高くすればよいというものではなく、実態に即した数値を置くことも大切だと考えております。

委員

県の移住イベントは、大阪や東京など大都市圏を対象としたものが中心ですが、町としては必ずしも都心部だけでなく、岡山や鳥取など、別の生活圏に近い地域も視野に入れてもよいのではないかと考えています。市川町は姫路や神戸に近いという立地上の強みもありますので、そうした方面の方が呼び込みやすいのではないかと感じています。

委員長

企業誘致でもそうですが、遠慮する必要はないと思います。知恵を持ってやれることはやっていけばよい。ただ、その時に大事なものは、市川町の住みやすさとは何かをはっきりさせることだと思います。

住みやすさというのは、交通の便だけではありません。地域との付き合い、生活のしやすさ、そういったものの全部です。例えば、今はペットを家族同然に飼っている人も多いですが、ペットの遺骨をきちんと扱える施設が近くにないというだけでも、住みやすさの印象は変わってきます。そういう細かいようで実は大事なことで含めて、心に訴える戦略を考えないといけないと思います。

市川町がこの先5年、10年で何を目指すのか、どういう町をつくりたいのか、その方向がもう少し見えるようにする必要があるのでないでしょうか。

委員

移住という点では、私の家の前にも空き家があって、近々若い方が来られる予定だと聞いています。嬉しいことだと思いますが、やはり村づきあいや地域のルールがハードルになっている面はあると思います。もう少し気軽に、お試しでもいいので来てもらえるような町になればいいなと感じています。各区で考える必要もありますが、それだけでは済まない大きな問題だと思います。

また、人口減少が進む中では、高齢者を支えることだけではなく、若い人が入ってくる仕組みをどう作るかを一貫して考える必要があると感じました。やはり町として魅力を高めていかないと、人は他所へ流れてしまうと思います。

委員長

教育も魅力の一つです。どこに住むかを考える時、子どもの教育をどう考えるかは大きい。市川町の教育で何が強みなのか、何が魅力なのか、それが見えるようにしていかなければならないと思います。

英語でもプログラミングでも、他でやっていないことをしっかり打ち出すことができれば、魅力になります。また、小学校が一つになるのであれば、近くにある高校とどう連携するかも考えるべきです。公立で制約はあるにしても、戦略として工夫できる部分はあるはずです。それと、市川町の住みやすさの一つとして、水の安全性も大きいと思います。こういう資源ももっと発信してよいのではないのでしょうか。

委員

市川町は土地が安い。実際に移住された方に、なぜ市川町を選んだかと聞くと、土地が安かったからという声があります。これは大きな魅力だと思います。ただ、来てもらった後に地域でコミュニケーションがうまく取れないケースもあります。事前に不動産業者などがある程度地域事情を伝えてくれればよいのですが、値段だけで売ってしまうこともあるので、そのあたりの仕組みづくりが必要ではないかと感じます。

また、企業誘致についてですが、市川町としてどういう点をアピールしているのか、コンセプトを教えてください。

委員長

移住してもらう時に、村の中にそのまま入ってもらうと難しい面もあります。都会の人は、ある程度自由度の高い住環境を望んでいる場合が多い。そういう意味では、新たな住宅地の供給や団地的な住み方も一つの方向かもしれません。

なかなか簡単に解決できる問題ではありませんが、問題点が分かっているのであれば、改善できるように相談しながら、住みやすさにつなげていく必要があると思います。

委員

企業誘致についても、土地代の安さは十分魅力になると思います。

企画政策課長

市川町が企業誘致を進める上での魅力としては、やはり土地価格の優位性が一つあります。上田中地区で計画しておりますが、他市町と比較して価格差を出さないと来ていただけないのではないかと考えております。災害が少ないことも一つの要素ですが、現実には価格面で勝負しなければならないと考えています。

ただ、産業団地については、まだ企業がすべて決まっている状況ではありませんし、人口減少の影響もあって、民間の事業者からは、市川町に新たな集合住宅を建てる計画はないという話も聞いております。

委員長

そのあたりは、不動産業界や事業者側がどういう見通しを持っているのかも把握した上で、戦略を練っていく必要があると思います。

委員

先ほど中野委員から、岡山方面も含めた移住の可能性という話がありましたが、実際に岡山方面から市川町へ移住しやすいという感触は何かありますか。

委員

現時点で具体的な実績があるわけではありません。ただ、例えば岡山から大阪方面へ転職する方がいて、その中間的な居住地として考える可能性はあるのではないかと考えています。必ずしも岡山に限る話ではなく、西側の都市圏との連携も一つの可能性として考えられるのではないかと考えています。

委員

兵庫県でも、空き家再生に関するエリアマネジメントのような仕組みづくりを進めております。建築、防災、移住支援、空き家活用に関する知識やスキルを持った団体を育成・認定し、それがPRにもつながり、活用促進にもつながるという考え方です。先日も3団体が認定されたところです。

移住された方が地域に溶け込めるかという課題についても、地域や自治体が支える仕組みづくりが今後重要になると思います。

委員長

そういうつながりを狙っていくのは、十分可能性があると思います。狙いを定めて進めることも必要だと思います。

委員

94 ページのデジタル化の推進についてですが、LINE 公式アカウント登録者数を増やすという目標があります。登録するとどんな情報が得られるかは書いてありますが、実際に登録したくなるようなメリットが見えないと広がりにくいと思います。何か具体的に工夫されていることがあれば教えてください。

また、先ほどの住みやすさの話にも関係しますが、私も姫路から移住しており、地域では 80 歳を超える方が多く、回覧板や広報配布の負担が大きいと感じます。広報などもデジタルで対応できれば、若い世代にはむしろ便利ではないかと思います。

企画政策課長

市川町の公式 LINE は昨年 12 月にリニューアルを行いました。私自身が使っていて便利だと感じるのは、ごみ出しアラート機能です。時間を設定しておく、「今日はペットボトルの日です」といった通知が届きますので、非常に実用的です。

また、広報もデジタルで配信できますし、観光イベント、防災情報なども受け取れます。ただ、何でも一律に送ると煩わしくなりますので、最初の登録時に自分が欲しい情報だけ選んで受け取れる仕組みにしています。加えて、9 月からはクーポン機能も付け、割引チケットとして活用できるようにしています。防災情報については、選択に関わらず届くようにしています。町内向けだけでなく、町外向けにイベント情報やふるさと納税情報を発信する機能もありますので、ぜひ活用いただければと思います。

委員

高校でも防災への意識づけはしていますが、高校生が自分から広報を確認するかという難しい面があります。そういう意味では、LINE のような日常的なツールは有効だと思います。

企画政策課長

参考までに申し上げますと、上瀬加区では区独自の公式 LINE を活用されています。区内情報の発信などにも使われていますので、地域単位でも活用の可能性はあると考えております。

委員長

ありがとうございました。では、最後に町長から何かありましたらお願いいたします。

【町長コメント】

町長

この会議の中でも、移住についてはいろいろな制約や課題があるという話が出ておりました。私の住んでいる地区では、その面では比較的に移住しやすいように工夫しておりまして、誰が来られてもお祝い金を出しています。去年から 3 人ほど来られています。ただ、地区によっては自治会財産の取り扱いなどもあり、それぞれ事情が違います。私の村では、新しく来られた方も入りやすくするため、これまでの自治会財産は分けませんが、加入は強制はしませんという形を取っています。各区長さんにおかれましては、各区の約款やルールを整理して、一覧のような形にしていただけると、移住を考える方の参考になるのではないかと思います。

もう一点、兵庫県にもお願いしたいのですが、坂戸に2棟ある県営住宅について、閉鎖の方向と聞いておりますが、そこを新しく整備していただければ、市川町の人口増に大きくつながる可能性があると思います。ぜひ再検討をお願いしたいと思います。以上です。

委員長

ありがとうございました。厳しい現実もありますが、非常に大事な視点だったと思います。それでは、進行を事務局にお返しします。皆さんありがとうございました。

【閉会前のお知らせ】

企画政策課長

委員長、ありがとうございました。事務局から1点お知らせをさせていただきます。配布資料の中に「灼熱祭」のチラシを入れております。さまざまなイベントや出店がありますので、ぜひお越しいただければと思います。

それでは閉会にあたりまして、高松副委員長からご挨拶をお願いいたします。

【閉会のあいさつ】

副委員長

本日は委員の皆様には、長時間にわたりご協議いただきまして、誠にありがとうございました。令和8年度から令和12年度までの5年間の取組について、それぞれの立場から大変貴重なご意見をいただいたと思っております。本日は話し合われたことは、どれも市川町の将来につながる大切な内容であったと感じております。私自身も、これからさらに勉強しながら、皆さんと一緒に進めていきたいと考えております。今後も力を合わせて、計画の実行と推進につなげていきたいと思っておりますので、引き続きご協力、ご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

企画政策課長

ありがとうございました。次回、第2回総合戦略会議につきましては、年末に日程調整をさせていただき、2月下旬頃に開催したいと考えております。次回は、第3期総合戦略の進捗状況や、令和9年度に向けた動きについて、ある程度お示しできるのではないかと考えております。日程が決まりましたら、事前に資料をお送りいたしますので、ご出席のほどよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。